つなぐ　つたえる　地域農業

妻有のきずな

十日町市農業委員会だより

2025年2月10日発行
No.38
十日町市農業委員会

とおかまち
女子農業
農ではたらく

松代

ＦＣ越後妻有
ＮＰＯ法人 越後妻有里山協働機構

上村　美優 (19)
うえむら　みゆう

「新しいことにチャレンジしたい。」
そう話す上村さんは、高校時代はソフトボールの選手。しかし、コロナ禍によりインターハイをはじめとした大会が中止となり、消化不良であった。卒業を間近にして、サッカーのコーチをしていた父を通じて、ＦＣ越後妻有を知った。

サッカー未経験でも温かく迎え入れてくれるチームに興味を持ち、入団を決意。２０２３年に移住し、農業とサッカーの両立が始まった。社会人としての大地の芸術祭の対応、農業、そしてサッカー、全てが初めてのことばかり。「何がなんでも食らいつく！」という気持ちで必死の日々だったと話す。

今後の目標はサッカーの試合に出て活躍するとともに、農業を指導してくれている先輩、地域の方々にご恩を返せるよう「自立し、笑顔の素敵な農業者になりたい！」と力強く話してくれた上村さん。「若い子でも頑張ってるよ！というのを知ってもらえれば。私たちのパワーの源になるのでぜひ試合も観にきて、ＦＣ越後妻有を応援してください！」その笑顔はとても眩しく、エネルギーに満ちていた。

ＦＣ越後妻有
インスタグラム

「地域計画」を
実情とすり合わせ行動に移す

年頭のご挨拶

会長
村山 隆義

向春の候、穏やかな年明けを迎え、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、令和の米騒動などと騒がれ、一部店頭では品不足により米の価格が高止まり状態でした。最近は温暖化が進み常態化し、農業も気候変動に対応しなければならないようです。令和6年の作柄が中越地区は99と公表されましたが、現場の実感とは少しかけ離れている感があります。米需給のひっ迫感が強く価格は当面高い水準で推移するようですが、諸物価高騰の中、コスト削減や複合化による経営の安定が求められています。

農業委員会は、「農地を守り、担い手を育てる」という使命のもとに農地利用の最適化を進めてきております。農業経営基盤強化促進法等が改正され、10年後の地域農業の指針となる地域計画を作成することになり、皆様の協力により目標地図の素案を作成することができました。4月から実現に向けた取組が始まります。今後は地域の実情に合った見直しをしながら、農地利用の最適化、担い手、多様な農業者の確保等多くの課題に対応していかなければなりません。また、農地の権利移動等が農地法と農地バンク法に整理されました。契約更新時にはご確認いただき、不明な点は農業委員、農地利用最適化推進委員にお声がけください。

本年も皆様健康に留意され、穏やかで実り多き年であります よう願っております。

農業委員会大会が開催されました

11月21日㈭、令和6年度新潟県農業委員会大会が新潟市で開催され、県内の農業委員、農地利用最適化推進委員が参集しました。

大会では、農業委員等に対する表彰や、「農地利用の最適化に向けた施策推進に関する要請」等3つの議案についての議事が行われました。

また、今回は新潟県農業会議創立70周年ということで、フリーアナウンサーの伊勢みずほさんが「新潟の食と農に感謝！時代の変化への挑戦！」と題して記念講演をし、巧みな話術で自身の体験を語りました。

新潟県農業会議創立70周年記念 県知事表彰

村山　隆義　農業委員（十日町地区）

農業委員会長として9年在籍し、新潟県農業会議の要職を歴任していること等が評価され、県知事表彰を受彰しました。

Topics

農業委員の活動がわかる！
トピックス

市へ意見書を提出しました

農政部会を中心に当市農政についての意見を取りまとめ、12月19日㈭、市長に「十日町市農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を提出しました。意見書には、令和7年度からスタートする地域計画に関する内容を盛り込み、地域の農業経営や農地有効利用への支援の継続・強化を要望しました。

農地パトロールを実施しました

10月から11月にかけて、農業委員と農地利用最適化推進委員が農地パトロールを実施しました。農地パトロールは農地の利用状況の調査で、遊休農地や違反転用の発生防止・早期発見により、農地の有効活用につなげるものです。

グッドデザイン賞ベスト・100受賞

女性農業者の課題解決に取り組む農業法人 women farmers japan 株式会社（ウーマンファーマーズジャパン）が２０２４年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト１００」に県内の農業法人として初めて選出。日本デザイン振興会が主催し提案性や可能性など総合的に優れ、高い評価を受けた上位１００点がベスト１００となり、全国5，７７３点あった応募の中から選ばれました。

巳年うまれの年男からひとこと

樋口　則雄

農業委員
（中立委員）

農業委員（中立）２期目になりました。

日本の食料自給率は厳しく推移し、最新データではカロリーベース 38%、生産額ベース 61%の低い水準に位置します。お金はあるが食料がないということが日本の現状です。食料自給率に対し、官民一体の政策を駆使して改善しないと、この脆弱性は進むばかりになります。

農業に携わる我々の使命は非常に重大であり、課題が山積していますが、地域の農業を守り継承していくことが、未来を切り開く一つの礎となると考えます。

小海　輝忠

農地利用最適化推進委員
（水沢地区）

平成 29 年から農地利用最適化推進委員に就任し、３期目も折り返しを迎えます。

今期は、毎年行っていた農地パトロールのほかに、新たな仕事として地域計画の作成が加わり、地域の人との話し合いの場が多くありました。その話し合いの場では、集落ごとで大きな差があり、担い手がいるところもあれば、高齢化が進み今後農地を守ることが大変なところもあるといろいろな意見が聞けました。今後は、若者が農業に魅力を感じ、担い手不足の解消につながるよう情報発信などをしていけたらと思いました。

佐野　幸男

農業委員
（吉田地区）

今年６たび干支を数え、巳年の年男となり原稿を依頼されました。現在、推進委員１期、農業委員２期途中まで務めています。

昨年あたりから、地域計画を策定し目標地図により農地を担い手に集積・集約するため、地域の話し合いの場に参加する機会が増えました。そこで担い手から聞こえてきたのは、中間管理（水見・畦畔の草刈りなど）が大変で農地をこれ以上引き受けられないという悲鳴でした。また、土地改良区施設の老朽化により年々増える負担金は誰が払うのか、小作人か地主か。これらは農地集積・集約が進まない大きな原因ではないかと思います。地域計画策定という機会に考えなければならない重要な問題だと思われます。

髙橋　勝久

農地利用最適化推進委員
（川西地区）

昨年７月より農地利用最適化推進委員として、微力ながら活動させていただいています。私は昭和 40 年生まれで還暦となりました。兼業農家で稲作を４町歩、家族から応援してもらいながら耕作しています。

今、進めている地域計画。10 年度の目標地図を作ると、そこから見えてくる人手不足や後継者問題…条件が悪い耕作地から放棄地になる傾向があり、拡大することも考えられます。若者が農業に魅力を感じ、安定的な農業経営で経済力を確保するためにも、国や県から各種支援制度や補助金の強化を要望します。

地域とコミュニケーションを大切にし、業務に必要な知識と経験を有する委員になるべく努力します。

編集後記

遠方で暮らしている巳年の兄が、ひさーしぶりに帰って来ました。あんまり髭が白くてたまげましたが、「おまえ白髪増えたな…」と兄もつぶやいていたので、お互い様だったようです。良い年になりますように。

【事務局】

妻有のきずな
十日町市農業委員会事務局　本局（市役所二階）757-3286　三西事務所 768-4951（地域振興課）中里事務所 763-2515（地域振興課）
松代事務所 597-2222（農林建設課）　松之山事務所 596-3132（地域振興課）発行：十日町市農業委員会　編集：情報部会　印刷：(株) 滝沢印刷